

人ごとの一つのくせは有ものを我にはゆるせ敷島のみち歌よみのくせも、西行法師は縁行道してうそぶきてよみし、和泉式部は引かづきてよみはれの時はかほをふところさし入てよみける、道綱の母は燈を背きて目をとちて案じけるとぞ、

〔名物六帖〕

人事四、性行笑啼、左傳、邾莊公、下急而好潔、

潔癖、澄懷錄、元、潔疾、炳之、王思微、米南宮、倪元鎮、

潔疾、炳之、王思微、米南宮、倪元鎮、

〔類聚名物考〕

人事一

潔癖、きれいすぎ

潔病

淨病

好潔

世に奇麗好といふくせ有り、又不潔癖も是に同じ、これ多くは天資によるといへども、疢積もちの癪狂にちかき人に有るやまひなり、故に潔病とも云ふ、または愚癡にして、物に疑ひ深きよりもおこることなり、または浄病とも云ふ、但故人先達名ある人にも此癖あれば、是病といふもまたむべなり、

〔續日本後紀〕

仁明三、承和十年三月辛卯、出雲權守正四位下、文室朝臣秋津卒、

略、中、論武藝足稱驍將、但

在飲酒席、似非丈夫、每至酒三四杯、必有醉泣之癖、故也、

〔萬葉集〕

雜三、

太宰帥大伴卿讚酒歌十三首、略、中

賢跡物言從者酒飲而醉哭爲師益有良之、カシコト、モ、イ、ヨリ、ハ、サケ、ノ、チ、エ、ヒ、ナ、キ、ス、シ、マ、サ、リ、タ、ル、ラ、シ、

〔常山紀談〕

十、八、東照宮御指の中節たことなり、年老させ給ひては、屈伸しがたくおはす、是はわか

き御時より數度の戰ひに、初の程は廳にて下知せさせ給へども、事急なるに及ては、か、れか、れとて、御拳にて鞍の前輪をた、かせ給ふに、血流れて出る、かくのごとき事、幾度ともなき故となり、

〔續近世畸人傳〕

三、藤堂樂庵、檜林由仙、

略、中

由仙檜林氏は外療の名家なれども、性質朴寡欲にして、其伎を賣んとせざれば甚貧しく、居るに奴婢なく、出るに僕従なく、簾服を著し、藥籠をみづから携ふ、中年妻を喪て一男一女をはぐ、み